平成 １９年８月２日

各　　位

会 社 名　第一中央汽船株式会社
代表者名　代表取締役社長執行役員　野村親信
（コード番号 9132 東大証第１部）
問合せ先 企画･財務グループ長　堀越　正幸
（TEL.　０３－ ５６３４ － ２２４５）

平成 20 年 3 月期中間業績予想修正に関するお知らせ

平成 19 年 5 月 10 日に公表いたしました平成 20 年 3 月期の中間業績予想につきまして、下記のとおり修正を行いましたのでお知らせいたします。

記

１．平成２０年３月期の中間業績予想数値の修正（平成１９年４月１日～平成１９年９月３０日）

（１）連結　（単位：百万円）

	売　上　高	営業利益	経常利益	当期純利益
前　回　発　表　予　想（A）	58,000	6,300	6,100	3,600
今　回　修　正　予　想（B）	75,000	12,800	12,600	10,000
増　　減　　額（B－A）	17,000	6,500	6,500	6,400
増　　減　　率（%）	29.3%	103.2%	106.6%	177.8%
（参考）前中間期実績（平成１８年９月中間期）	52,512	5,549	5,370	2,982

（２）個別　（単位：百万円）

	売　上　高	営業利益	経常利益	当期純利益
前　回　発　表　予　想（A）	52,000	5,600	5,800	3,500
今　回　修　正　予　想（B）	68,000	11,900	12,100	9,600
増　　減　　額（B－A）	16,000	6,300	6,300	6,100
増　　減　　率（%）	30.8%	112.5%	108.6%	174.3%
（参考）前中間期実績（平成１８年９月中間期）	46,449	4,432	4,633	2,543

２．修正の理由

当第１四半期は、船舶燃料油価格が高止まりしたものの、為替が当初想定対比、円安で推移したこと、また、外航不定期船市況が高水準で推移したことに加え、効率的な配船と好採算貨物の獲得等の営業努力もあり、当社グループ(連結・個別共)の売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに当初見込みを大幅に上回りました。

第２四半期も、中国・インド等を中心とした荷動き量が引き続き堅調で、外航不定期船市況も高水準で推移すると予想されること、また、為替も、若干の乱高下はあるものの当初想定対比では円安で推移すると見込まれることから、売上高、営業利益、経常利益、中間純利益ともに当初見込みを大幅に上回る見込みとなりました。なお、本中間期予想数字には、平成 19 年 7 月 19 日に「固定資産の譲渡に関するお知らせ」でご報告した譲渡益（約４０億円）も特別利益として織込んでおります。

今後も、海運業を取り巻く環境は引き続き全般的に好調に推移すると見込んでおりますが、堅調な外航不定期船市況によるプラス要因、燃料油価格の高騰、金利の上昇等によるマイナス要因、並びに今後の為替の動向等を踏まえて、現在、下期業績予想の見直し作業中でございますので、通期業績予想につきましては見直し作業終了次第、発表する予定でございます。

なお、上記の業績見通しは、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は見通しと大きく異なることがあります。

以　上